



もくじ

こいびと — 表紙の生産者をご紹介
安佐北区白木町
岩重 隆弘さん 2

特集
いつでも!どこでも!手軽で便利!
JAのインターネット
バンキングサービス 4

- JA広島市通信 6
- 変わるんJA [第31回] 9

あなたの暮らしに支店だより
落合支店 10

教えて! 営農さん
JA広島市が栽培を
奨励する水稻品種 11

はじめての家庭菜園
モヤシ 11

JAヘルシークリニック
睡眠について
悩んでいませんか 12

松田麗子の台所からこんにちは
白ネギと豚バラ肉の
重ね焼き 12

- わが家のスター 13
- おしゃべり広場 13
- クロスワードパズル 14
- JA広島市 情報BOX 15
- ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
農家今昔物語 16



周囲への感謝を忘れずに
生まれ育った場所で、
米を作り続けたい。



圃場では、今年から多収米の栽培にもチャレンジした。



「今年はウンカの影響で収量は少なめ。でも、品質には自信があります」と岩重さん。



最盛期は、1日で乾燥・粃摺り・袋詰めを200~250袋行う。



My History
マイ・ヒストリー
2001年 それまでの仕事を辞め、
農業に従事

My Hobby
マイ・ホビー
山登り。年に数回、中四国や
九州の山を巡る。



両親から受け継いだ乾燥・粃摺り機。「秋は田んぼとここの往復です」

こいびと — 表紙の生産者をご紹介

岩重 隆弘さん (43歳) 安佐北区 白木町

安佐北区白木町では、8月下旬から10月中旬にかけて各地で稲刈りが行われる。米づくりを行う岩重さんも、稲刈りから乾燥・粃摺り作業と、この季節は何かと忙しい。日々の農作業に喜びを感じているという岩重さんに、その進め方や周囲の方への思いを伺った。

基本を守ることを
何より大切に

11畝の田んぼで米づくりを行う岩重さん。近隣の田んぼの稲刈りも受託しているため、収穫期の秋が一年で一番忙しい。収穫した米は、自身が所有する機械で、乾燥・粃摺り・袋詰めを行っている。

「基本に忠実に」。それが米づくりに対する考え方だ。適切な時期に田植えをして、適切な水管理をし、必要なときにはしっかり防除する。米は、作り方についての研究が進んでいるから、過去の経験で得られたものをあえて変える必要はないと考えている。「あまり難しく考えず、稲作ごよみに書いてあるとお

支えへの感謝を
いつも心に抱いて

「たくさんの人に支えられて生きている」と岩重さんは感謝を語る。会社を辞め、農業を始めることができたのは、両親が農地や施設を維持・管理してくれていたから。また、良い米の作り方を教えてくれる先輩農家やJAの営農指導員、自分の農地を使ってほしいという近隣の方。そして、なんといっても作った米を購入していただける消費者の方。たくさんの人に支えられ、生きていくと日々感じている。さらに、毎日、おいしい弁当を作ってくれる奥さまの存在も大きく、農作業への活力となっている。

周囲の支えや、「おいしい米をありがとう」と作った米を買っていただける消費者からの一言が、生まれ育った場所で米を作るエネルギーの源になっている。

米づくりに関わる
全てが喜びにつながる

「朝起きて天気がいいのも、田植え後の圃場を見るのも、草刈りを



好きな言葉
人に愛されること、
人に褒められること、
人の役に立つこと、
そして、人から必要とされること。
幸せは働くことによっても
得られます。

して圃場がきれいになるのも、手塩にかけて稲穂が美しく実るのも全ううれしいんですね」と岩重さん。しんどいことがあっても、苗が成長していくのを見ると、自然と笑顔になる。「へこまずに、投げ出さず、とにかく続けていく。農業に携わって20年。その大切さをひしひしと感じている。

現在は、白木町農事研究会の会長として、地域の農業振興に今までの以上に主体的に関わっている。白木町の農業がもっと元気になるために、今度は引継ぎの側に立つ。米づくりの喜びを知ってもらい、地域で米を作る人が一人でも増えてほしいと考えている。



本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。